

令和元年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）  
議事要旨

日時：令和元年7月25日（木）9:59～12:00

場所：三田共用会議所

## 1. 開 会

国土技術政策総合研究所 所長挨拶

事務局より、分科会（第一部会）委員および国土技術政策総合研究所職員の紹介  
以降の議事進行：主査

## 2. 評価方法・評価結果の扱いについて

事務局より、評価の目的および評価方法・評価結果の扱いについて説明

## 3. 評 価 <令和2年度新規事項立て研究課題の事前評価>

- ・「現場の環境変化を考慮した土木施工の安全対策の高度化に関する研究」

国総研より、研究の目的・目標、概要等について説明。

【質疑応答】（●：委員側発言 ○：国総研側発言）

●最近の事故には、思いがけないようなミスが多く、現場の経験不足が露呈してきている。デジタル化により効率化される一方で、過程がブラックボックス化されることで、ますます現場感覚が鈍くなっていくと考えられるので、このような点についても踏まえて研究されたい。また、一般的には元請が安全工事を行うが、専門工事業も大手になると責任施工で行っている。このことから責任者が曖昧になってきているため、責任者の明確化もご検討頂きたい。

●説明された研究計画は十分ではないように感じる。その要因として3点考えられる。1つ目は、背景・課題で外国人労働者について言及されているが、研究計画にはない。2つ目は、労働安全を考える際に、よく持ち出されるヒヤリ・ハットについて言及がない。3つ目は、作成するマニュアルの項目数が不明であるため、全体の見積もりが出来ない。

○本研究の主は、リスクアセスメントのプロセスを現場に導入できるようにすることである。ヒヤリ・ハットに関して、ご紹介しましたオペレーターの観測実験の中でその要因を見たいと考えている。また、まずは機械を使った土を動かす作業について取り組み、その分析の枠組みを他の作業へ

展開したいと考えている。

- シナリオは良いのですが、具体的な方法論でアプローチするのかが分からない。高齢化、労働者の多国籍化、猛暑といった環境変化について、それぞれどのような視点でアプローチするのかを示していただきたい。また、事故の結果よりもヒヤリ・ハットの情報を解析する方が重要。現場の方や所属する団体等にヒヤリ・ハット情報を集めて頂くと今後の研究展開も魅力的であると思う。
- 高齢・外国人労働者にも分かりやすいマニュアルなり、チェックリストなりを作って頂きたい。
- リスクアセスメントの実施が難しい中小企業に向けてどのようなところが重要なかを意識されたい。また、将来的にはこの研究の成果を建設業関係団体等と協力して現場の方にも分かりやすい形にしていくことも視野に入れて頂きたい。

#### 4. 意見交換

<省略>

#### 5. 閉 会

国土技術政策総合研究所 所長挨拶